

# 定例教育委員会会議録

(平成28年10月12日開催)

岡谷市教育委員会

# 定 例 教 育 委 員 会

日 時 平成28年10月12日(水)

午前10時00分

場 所 202会議室

署名委員 高木委員、藤森委員

## 【 次 第 】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 報 告

1. 岡谷スタンダードカリキュラムについて【資料 冊子】 (教育総務課)
2. 岡谷小学校解体工事概要について【資料 No1】 (教育総務課)
3. 岡谷南部中学校改修工事概要について【資料 No1】 (教育総務課)
4. 間下教員住宅南西法面崩落後の経過と対応について【資料 No2】 (教育総務課)

### ○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

【次回開催予定】 11月 8日(火) 定例教育委員会 15時00分 保健センター研修室

### 席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 橋爪 園美、教育委員 太田 博久、  
教育委員 高木 千奈美、教育委員 藤森 一俊

### 事務局(説明員)

教育部長 吉澤 洋人、教育部教育担当参事 橋爪 哲也、教育総務課長 帯川 豊博、  
生涯学習課長 小坂 英之、スポーツ振興課長 小松 厚、冬季国体推進室長 小口 智行  
教育総務課統括主幹 山田 勝由紀、教育総務課主幹 高橋 卓、教育総務課主査 保科 圭吾

## <会議録>

### ○開 会

岩本教育長： おはようございます。久しぶりに青空が広がって爽やかな朝を迎えておりますけども、今日はよろしくお祈りします。それでは、只今より定例教育委員会を始めたいと思います。本日の署名委員は高木委員さんと藤森委員さんをお願いいたします。

### ○教育長報告

教育長報告でございますが、今日は報告事項が4つございますので、私からの報告はそれに代えさせていただくということでよろしくお祈りします。

### ○報 告

#### 1. 岡谷スタンダードカリキュラムについて (教育総務課)

岩本教育長： それでは私から岡谷スタンダードカリキュラムの作成の狙い、特徴につきまして申し上げたいと思います。

これからの社会が抱える問題に人口の減少と少子高齢化があります。ここ岡谷の人口も、ついに5万人を割り込みました。その中にあっても、未来を担う子どもたちが健やかに育つために、確かな学びと心の成長を保障する必要があります。

そこで、岡谷市では、今後の目指すべき教育の姿を明かにしようと、昨年12月に岡谷市教育大綱を策定いたしました。その根本となる教育理念として「自立し、共生し、創造性溢れる岡谷のひとづくり」を据え、さらに教育理念を受けて、学校教育の分野におけるスローガンを、「生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり」といたしました。

さらに、このスローガンの具現を図るために、学校教育の重点を5つ決めました。

- 1 地域に根ざした特色ある学校づくりの推進
- 2 ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進
- 3 笑顔で安心して学べる教育環境の整備
- 4 確かな学力保障と成長保障を図る授業改善
- 5 「自立と共生」につながる教育活動の充実

こうした中で、とりわけ2のふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進に関わって、ものづくりに代表されるふるさと『岡谷』の様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの普遍的な教育スタイル「岡谷スタンダードカリキュラム」を構築し、岡谷の『ひと・もの・こと』に誇りと自信を持ち、郷土を愛する心を醸成したいと考えました。

そこで、これまでの各学校での取り組みを紐解きながら、丁寧に系統化を図り、この度、岡谷ならではの素晴らしいカリキュラムが完成いたしました。

本市では、岡谷小、田中小、神明小、三校の学校統合を契機として、笑顔と魅力あふれる学校づくりのあり方を検討してきました。今回の学校統合は、学校のあり方そのものに加え、岡谷の歴史や文化、教育や産業などの地域の力を見つめ直すチャンスでもありました。そんな今、岡谷で育つ子どもたちだからこそできる学び、大切にしていきたい学びを編制し、この学校統合を契機に、岡谷の学校すべてが、新たなスタートを切ることで、これからの未来を生きる子どもたちを育てていくことに思いを致し岡谷スタンダードカリキュラムの推進を図っていきます。

この岡谷スタンダードカリキュラムは、岡谷に暮らす子どもたちが、岡谷ならではの学習素材を通して、岡谷の歴史や文化のつながりを感じていく中で、学習内容を自分事にしていく過程を大切にしています。それは、ある教科に特化したものではなく、全ての教科や領域、ひいては学校生活の活動全般にわたり、総合的かつ横断的につながっていくものであり、その学習過程には、学びの必然性が生まれていきます。

これまでも、社会科や生活科、総合的な学習の時間などで、地域素材を題材にした学習や授業研究は行われてきました。しかし、全ての教育活動を貫く系統的な地域学習のカリキュラムは、他に類を見ないものであります。

今後は、各校で、この岡谷スタンダードカリキュラムを大いに活用しながら、岡谷の子どもたちと、その成長に関わる全ての人たちが、共々に手を携え、素晴らしい学びの世界を繰り広げていただくことを、心より期待しております。

続いて、この岡谷スタンダードカリキュラムを中心的に編成する任にあたっていただいた統合企画教員の竹内先生と小林先生のお二人から具体的な報告をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

#### <統合企画教員より岡谷スタンダードカリキュラムについて説明>

事務局：平成27年度から統合校となりました神明小学校、岡谷田中小学校の学校づくりを中心とした取り組みが文部科学省からの委託研究事業であります。少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業に採択がされております。これは、来年度までの3年間ではありますが、この事業の内容として新しい統合校のグランドデザイン、児童の交流、ものづくり教育の推進、岡谷コミュニティスクールの推進、それから岡谷スタンダードカリキュラムの実践が位置づけられております。この委託研究事業の中で学識経験者をお願いしまして、事業に協力をいただいて、意見や評価をいただくことになっております。当市では福井大学の教職大学院の松木健一教授、それから蚕糸博物館の館長であり農学博士の高林千幸先生にお願いをしているところです。今回の岡谷スタンダードカリキュラムの策定にあたりまして、協力をいただいている訳ですけれども、学識経験者を代表いたしまして、本来であれば、当委員会に高林千幸先生にご出席をいただく予定でございましたけれども、たまたま本日出張と重なってしまいまして、代わりにビデオでメッセージを頂戴しております。

#### <高林千幸先生のビデオメッセージを上映>

事務局：今回の岡谷スタンダードカリキュラムの検討をするのにあたりまして、岡谷市校長会の皆様にも深く検討をいただいております。今日は校長会の岡谷南部中学校の両角会長さんと神明小学校の宮坂副会長さんにおいでいただいておりますので、少しコメントをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

宮坂副会長：神明小学校の宮坂でございます。平素より本校の子ども達、岡谷市の子ども達を支えていただき感謝申し上げます。ありがとうございます。私個人的には岡谷市教育大綱の5つの重点の中の2つ目のふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進の中で岡谷ならではの学習、岡谷ならではのところに物凄く心惹かれます。昨年までお世話になりました岡谷小の子ども達の様子や神明小の子ども達の様子をもとにしながら、2点からこの岡谷スタンダードカリキュラムの魅力語り、後押ししたいと思います。

子ども達の姿ですが、先ほど竹内先生からお話がありましたようにお蚕様を通して学習出来るところに私は大きな価値があると思います。1、2年生の生活科では実際にお蚕様を飼育しながら、学習のみにこだわらず、命に関わる学習が出来るということ。3、4年生では郷土の先人、例えば岡谷小・今の神明小の学区でもあります間下区の武居代次郎さん。彼のおかげで製糸業が飛躍的に発展した訳ですが、そうした郷土の先人に触れる学習。そして、5、6年生、特に6年生では歴史学習の中で製糸業の内容に触れること。更には、岡谷小では、卒業時にお蚕様を利用してのコサージュ作りを行いました。その時もシルクファクトの林先生の指導で親子共々作った訳ですが、コサージュのみを作ることに価値があるのではなくて、このコサージュに含まれた意味や価値、つまり歴史を学習したからこそこれを作る意味があるんだ、そんなことを教えていただきながら、歴史学習の中で時々の絡まりを学習したことを最後にもう一度岡谷市の通史として製糸業を学習していく。本当に価値がある学習だと私は思います。蛇足ではありますが、そのコサージュは、子どもが胸に掲げ、着けて入場した後、最後教室へ戻って「6年間ありがとう」という言葉と共に保護者の方にそれをプレゼントする、そんな流れであります。

学び直し、それと意味付け、価値付けをする中での学びの深まり、しいては学習内容を自分事としていく。高林館長さんのお話しにもありましたように、生きた学びにしていくという点で大きな価値、

魅力がある事だと思います。

2つ目は教師サイドであります。私は専門科が社会科ですが、私のような社会科教師はそれぞれ赴いた地域で年に1つ2つ地域素材の教材化を行っております。岡谷市の中では私は本当に色々なことが溢れていると思います。先ほどの説明にもありまじょうに、様々なこの岡谷の地域にある素材を教材化していくこと、そこに力を注ぎたい訳ですが、なかなか一から作るということが出来ないところも正直ございます。ですので、元の案としてのスタンダードカリキュラムがあれば、先生方が岡谷の地域性、そして目の前にいる子ども達、それらを合わせながらこのことを子どもたちに是非教えていただきたい、そんなことが本当にスムーズに出来るんだろうなと思います。

神明小では、今年公開させていただいて5年目になる訳ですが、今年度よりワークショップという形で地域も少し発信できないかなということで、繭を使った制作、そして太鼓の練習、また、風の強い神明小の地域を生かすということで、連風作り等を参観者にも体験していただきました。講師の先生からは、生活科総合だけの学習から教科連動ということで、このスタンダードカリキュラムを利用しながらも、来年度各教科での公開というのも視野に入れて行ってもらったらいいいのではないかとのご指導もいただいたところであります。統合後の新たなスタートや岡谷市全体、小中連携を踏まえた子ども達の学びを考えていく時に、このスタンダードカリキュラムを各方面でアレンジしながら実践していくことに大きな価値があると思います。本校でも先頭をきりながら行っていきたいと思います。

以上小学校サイドからの後押しの意見、考えてございます。

両角会長： 岡谷南部中学校の両角と申します。いつも本当に南部中学校の教育に対して色々なご理解やご尽力をいただき、ありがとうございます。それでは、中学校サイドから岡谷スタンダードカリキュラムについて後押しの意見等を申し上げます。私も岡谷が大事にしている岡谷の『ひと・もの・こと』教育がこのスタンダードカリキュラムに出ていると思います。せつかくこの岡谷に赴任した教員が岡谷の事を語らなくてこの地を去って行くということは、物凄く残念なことであり、先生方の人生の中でも非常にプラスになる、そこを支援するのがこの岡谷スタンダードカリキュラムだと思います。引き出しがそこにあって「あっこんな事も参考になる」、「これもやってみたいな」ということが思えるか、それを仲間と語り合える岡谷市。それが岡谷が大事にしている人のこと、ものこと、こと、そういったことをこのスタンダードカリキュラムがやって行くことが出来るということ。先ほどの話をも被るかもしれませんが、そのことが私は一番良いことだと思っておりまして、教師の指導力を伸ばすことにも繋がるカリキュラムだと考えております。

また、子どもの方も小学校の方で学んできたことが色々あります。本校でも総合的な学習の時間を中心に岡谷のことを考える時間を取っております。1年生は岡谷を知る、郷土を知る。それから2年生は岡谷に学ぶ。3年生は岡谷の地域に貢献するということをテーマとして文化祭等に向けては発表をしていくということを考えています。1年生でこの岡谷を知るということをやった時に、本校でも1年生がシルクファクトに行かさせていただきました。そこでは、林先生が迎えてくれたんです。そうすると子ども達は「小学校の時にお蚕さんでお世話になった先生だ」と言って、まずお蚕様を見させてもらったりする。「懐かしい」と言いながら見ている姿がありました。こんな感想を述べています。「シルクファクトでは、小学校の時に教えてくださった林先生が、今回も館内を案内したり、お話しをしてくださいました。ちょっと嬉しくなりました。」ここが、良いと思うんですね。引き出しがあるので、教師もそこにまた行ってみようという仕組みが出来ますし、子ども達も「あの場所に行ったよね。」という思いがくることが大事かなと思っています。そして、「学んできたことはむかしは製糸が結構高かったのに、段々技術が進んでくるとその価値が下がって行って約4,000円も下がったことを学びました。」こういった学び、それから、「蚕が作った繭の糸を取るむかしの機械を見ました。もう一度見学しました。早く糸が取れてすごいな。私達の岡谷ではむかしからこんな機械を使っていることを知り、あらためて嬉しくなりました。また、林先生からいつも言われていますが、蚕の糸を取るときには蚕を殺さなければいけないので、命の大切さということを考えてごらんという話をされました。そのことをもう一度あらためて学びました。」そんなことを子ども達は感想に述べています。小学校からの学びを連携させてもらって、中学校で更に経験的に学びを高めることが出来るスタンダードカリキュラム。それから、子ども達も関わりながら学び、教師も学ぶ。そういったことが出来る岡谷の人づくりに生きるスタンダードカリキュラムだと思っています。是非、今年これが出来上がってきましたので、今後も先ほど竹内先生からも話があったように、これは固定的なものではないので、どんどん情報を集めて行って、更に幅の広く多くのものが使えるスタンダードカリキュラムを作って行きたいなと考えています。そんなことを込めて中学校でもこれを応援していきたいと思っておりますので、ありがたいなと思って

おります。

岩本教育長： それぞれのお立場からありがとうございます。それでは、教育委員さんから只今の発表について感想、あるいは質問、ご意見等いただけたら幸いです。

太田委員： 率直に非常に面白いし、素晴らしいと思いました。あらためて、もう1回小学生、中学生をやり直したいというように自分で思うような非常に素晴らしい内容だと思います。ただ単にここで出来たというだけではなく、今まで色々な事を積み重ねてきて、今後ということを見据えて形になったということそのものに今までの学校での先生方のご苦労と努力が忍ばれて、それもまた非常に良いことだと感じました。正直に申し上げますと、ふるさと岡谷とか、岡谷ならではとか、若干心配していたことは、往々にして過去の栄光にしがみつくと言いますか、何か良さだけを強調しすぎて、逆に排他性とまではいかないかもしれませんが、そういう事に繋がったりする恐れも無きにしもあらずの要素かなとも思っていました。今プレゼンを拝見してもうそんなことはまったく杞憂だということが良くわかりましたので、そうゆう意味では私自身も一教育委員としてこれを何らかの形でバックアップ、ご協力、ご支援していくことを考えた時に非常にやりがいもある内容になっているということ強く感じさせていただきました。

高木委員： 今のプレゼンを聞かせていただいて、この岡谷スタンダードカリキュラムが大変細かい部分まで配慮されて、子ども達のことだけではなく、それを作っていく教職員の先生方にまで考えが及んで作られているということに大変感銘を受けました。このカリキュラムの価値を7つ挙げてくださったんですけども、その中の岡谷にはこんな素材があったのか、それからこういう人たちが事業や学習に協力してくれるのかという事を知ってということにとっても深く感銘を受けました。岡谷のもの・ことだけではなく人という宝に気付くってということが、何より大事なことだと思いますけども、ものやことだけではなくて周りにいる人達、過去の人達だけでなく、今現在いる、共に生きている人、その人達の存在の大切さに気付いていくということにも目を向けていられて、とても素晴らしいことだと思います。これが小学校から中学校へと繋がって、子ども達が学校の中で先生達と一緒に、先生達も子ども達と一緒に成長していくという姿が見られてとてもうれしく思います。

藤森委員： こんな素晴らしいカリキュラムがいつの間に出ていたんだろうということで、まずもって大変感銘を受けました。特に岡谷の『ひと・もの・こと』教育という事で、身近にある岡谷の『ひと・もの・こと』の良さを教育の中に取り込んでいただく、しかも色々な教科の中で、例えば国語であったり算数であったり社会といった教科の中に岡谷の身近な素材を取り入れて、それをベースに学んでいくというような、そういったカリキュラムは大変素晴らしいなと思いました。

私は仕事が製造業ですから、本当にかつてのシルクの岡谷から脈々と続く岡谷のものづくりの中で仕事をやっておりまして、自分の仕事を通じた中で子ども達に岡谷の良さを少しでも教えていけるようなことも思っていましたので、そういった部分でもご協力できる部分があるんじゃないかと思いました。特に製造業という視点で言いますと岡谷の企業は世界の最先端の中で日々戦っているという言葉が当てはまるかわかりませんが、そういった素晴らしい企業があります。是非、こういったカリキュラムの中で岡谷の良さという学びを通じて日本の中、世界の中の岡谷っていうのがどういうポジションにあって、出来ればもちろん良いことだけでなく色々な課題、問題点というのがある訳でありまして、そういうことを難しい話ではなくて上手に子ども達に学習の中で考えて行っていただけるようなカリキュラムも出来れば素晴らしいのではないかと、ちょっと生意気ではありますが聞きながら思った次第でございます。大変素晴らしい内容だと感じました。

橋爪委員： 本当に誇りに思える素晴らしいものが準備されたなと感じて見させていただきました。これで固定ではないという事で発展性もはらんでいるということで、大変希望が持てる、夢があると感じているところです。先生方も素材がこうしてあるということはお存じなのかもしれませんが、実際に使うというところに一つハードルのようなものがあるのかなと思うのですが、こんな風に整理されてベースになるものがあると、そこを乗り越えやすいのではないかなと感じて、ご活用いただけそうだなという風に喜んでいるところです。子ども達にとっても、やはり学ぶときに自分に引き付けて学ぶことが、何よりも身に付きやすいという風に思いますので、是非こういった観点で子ども達の学びが格段に確保できるかなと思います。そういった意味でもご活用いただきたいと思います。地域の方にとっても地域に根差した題材でという風になると、より一層積極的にご協力いただけるのではないかなと思って、皆さんにとって非常に素晴らしい土台が準備されたなと感じているところです。

草間職務代理： 本当に子ども達にきめ細かい岡谷の歴史、シルクの歴史ということを学べるように体系付けていただいたということに本当に感謝申し上げます。また、先生方も長野県各地から岡谷へ来ていただく訳で

ございますけど、このようなものがあれば、早い時期に岡谷を理解して、スタンダードカリキュラムにある学習に取り組めることと思います。私事でございますけれども、10月8、9、10日の連休に小学3年生の孫が学校で育てているお蚕様を家に持って帰り、家で育てていました。ところが2日目の夜に物凄く泣いていたので、どうしたのかと聞いたところ、餌の桑の葉が無くなり、お蚕様が死にそうだと行って泣いていたのです。そこで、夜母親とシルクファクトへ行き、桑の葉をもらってきて、何とか生きのびるように見守っていました。こうやって、家庭の中でも、家中でお蚕様を育てるという中から、お蚕様について学び、非常に生きた学習をしていると身をもって経験しました。子ども達、そして、そういう家庭が育っていくことは、市民を巻き込んだ岡谷のまちづくりに繋がっていると理解できるような気がします。本当に体系付けができたスタンダードカリキュラムがあることによって、更に岡谷のまちの魅力が外に向かって理解していただけることと思います。

岩本教育長： 大変貴重なご意見等いただきありがとうございます。形はしっかりと出来ましたので、ここに中身のある、そして実行性のあるものにして行くことが大事かなと思います。それぞれの先生方はパソコンにスタンダードカリキュラムのデータが全部入っておりまして、いつでもそこから引き出して授業の教材研究が出来る、そういう仕組みになっております。明日からでもどんどんと進めて行くことが出来るという体制づくりも出来ておりますので、なんとかこれを活用して、未来の日本あるいは岡谷を担う子ども達が本当に大きく健やかに成長して欲しいということを願っているところでございます。

事務局： このスタンダードカリキュラムは教育委員会のホームページにもアップをさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

岩本教育長： 市民の皆さんも見ることが出来るということでございます。今後もこれが完成形ではないというところが大事なところで、子どもの様子や色々な状況に応じて付け足していく、修正していく、そういうことが出来るカリキュラムだと受け止めておりますので、そんな点を是非ご意見等寄せていただければありがたいと思っております。

## 2. 岡谷小学校解体工事概要について (教育総務課)

岩本教育長： 次に報告事項2について事務局より説明をお願いします。

<事務局より岡谷小学校解体工事概要について報告。>

岩本教育長： 何かご質問等ございますか。

いよいよあの校舎が取壊されるということはとても私的には寂しい訳ですけども、よろしいでしょうか。また、工事等の途中経過も報告をさせていただきながら、安全に工事をしていただくようお願いをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 3. 岡谷南部中学校改修工事概要について (教育総務課)

岩本教育長： 次に報告事項3について事務局より説明をお願いします。

<事務局より岡谷南部中学校改修工事概要について報告。>

岩本教育長： この南部中学校改修につきましては、学校の先生方の意見を最大限に取り入れながら、何回も何回も打ち合わせをした中でこういった設計図が出来てきた訳でございます。何かご質問等ございますか。

こんな形で南部中学校が改修されるということでございますので、よろしくお願いいたします。

## 4. 間下教員住宅南西法面崩落後の経過と対応について (教育総務課)

岩本教育長： 続いて報告事項4について事務局より説明をお願いします。

<事務局より間下教員住宅南西法面崩落後の経過と対応について報告し、追加でやまびこ国際スケートセンター南側駐車場法面の崩落について報告。>

岩本教育長： 何かご質問等ございますか。それでは、次にその他ということで、事務局からお願いします。

## ○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

・その他

岩本教育長： 続いて委員の中でご報告等あればお願いいたします。

橋爪委員： 学級懇談会というか、保護者の交流サポートの件ですが、まず初めに前回教育委員会の後に検討の機会をいただき、ありがとうございました。今回は特に活動の報告という訳ではないですが、来年度を見据えながらさらに考えていきたいなと思っております、その後の方向性といいますか、何か見えてきたものがあればお伺いしたいと思っております。前回の検討会の締め括りが教育委員会内で検討をしていただけたということでしたので、何か進展等あれば教えてください。

事務局： これまでの取り組みの中で、前回課題等いただいております、市の方でも色々な部分で関わられる部分があればと思っておりますが、予算的にはなかなか難しいという風には感じておりますけれども、良い形で今後広がって行ければと思っておりますので、皆さんからもご意見をいただいて、また来年に向けて取り組めればと思っております。

岩本教育長： 教育委員会でも話題にして検討はしておりますけれども、今課長が言われたとおり難しい点もございます。

橋爪委員： 今年1月に子ども課の子育てママのおしゃべりサロンを担当されている方と半年ぐらい似たような取り組みをお互いしていて、秋頃情報共有しましょうというようなことでお話をさせていただいてあるんですけど、そろそろお声掛けをして、どんな具合かお互いに取り組みの報告をさせていただいたりしながら、情報共有出来たらと思っておりますが、その進め方も例えば私の方で直接連絡を取らせていただければよろしいでしょうか。どんな風にすればよろしいでしょうか。

事務局： その部分については聞いていなかったもので、必要であれば調整させていただきます。

岩本教育長： 具体的に相談して調整は課長さんにやってもらった方が良いと思います。

橋爪委員： またご相談させていただきます。

岩本教育長： それでは事務局より次回の開催予定についてお願いします。

<次回開催日の調整>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、10月の定例教育委員会を終了とします。

終了11時40分

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

平成28年11月8日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

高木千奈美

署 名 委 員

藤森一俊

調 製 職 員

吉澤洋人